

# 相模原殺傷1カ月 県警「被害者実名非公表」

## 「存在を否定」「逆差別」

相模原緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」で入居者19人が刺殺された事件から26日で1カ月。事件をめぐるっては、県警が障害者への配慮などを理由に被害者の実名を公表せず、疑問や批判の声が起きた。障害を持つ人やその家族はどのような思いでいるのか。事件に対する怒りや非公表をめぐる問題について聞いた。

(古川有希)

「被害者の名前を公表しないのは、差別だ」として、障害者や家族から批判が殺到している。県警は「被害者のプライバシーを保護するため」として、被害者の実名を公表しない方針を堅持している。しかし、障害者や家族からは「被害者の名前を公表しないのは、差別だ」として、障害者や家族から批判が殺到している。県警は「被害者のプライバシーを保護するため」として、被害者の実名を公表しない方針を堅持している。



左足の親指で音声の出る機械を操作し、取材に応じる鎌倉市議の千一さん 鎌倉市

## 障害者や家族「『なかったこと』にしないで」

不幸ではない

「驚いた。良いとか悪いとかではなく、普通は被害者の氏名は出るもの」としたのは、重度の脳性まひを持って生まれ、手足と言語に障害を持つ鎌倉市議の千一さん(62)。唯一自由に動く左足の親指で音声の出る機械を操作する形で取材に応じた。

周囲からのあからさまな偏見や人々の心の中にある差別観と常に闘ってきたから、「実名を公表したくない」という家族の気持ちも理解できる。

自身も平成13年から議員活動を続けているが、「健全者の議員は共生社会、心のバリアフリーとか議場ではまことしやかに言います。でも、健全者の議員同士は気が合えば飲みに行ったり視察に行ったりもしますが、僕の場合は一度も誘われたことがありません」と表情を曇らせる。それでも、今回の県警の判断は「逆差別」だと感じたという。

千さんは、女性9人の殺害容疑で再逮捕された植松聖容疑者(26)が「障害者は不幸だと決めつけていること」にも憤りを隠さない。

「たとえ寝たきりでも幸せに生きている方もいれば、五体満足でも不幸な方もいます。それぞれの価値観の問題です」